

# 取産香遺

Vol.86

「頭白上人塚」  
ずはくしやうにんづか

中世の大規模な供養塚



▲頭白上人塚



▲墳頂部の板碑

県道佐原八日市場線、大根

います。

地区の「来光」バス停前、八日市場方面に向かって右側の杉林が「頭白上人塚」です。

いまだに香華がたえないこの塚は、一辺が60mにも及ぶ三段に築構された中世の大きな方墳です。塚の最上部には文明18年（1486）銘の板碑が建立されています。

頭白上人は、大根西蔵院第五世の住職で、生まれながらに白髪という風貌と、優れた能力の持ち主であったことから、尊敬と親しみをこめてこう呼ばれていたようです。

戦国時代初期、この周辺では悪病や火災が続いたことから、上人は人々の苦しみを救うため、ここに入定窟を築き、

生きながら地下にこもって七日七夜読経のあと死を迎えたと伝えられています。

上人を慕って、多くの人々が塚造りに参加をしたことから、ときの矢作城主からそれ以上塚を高くしてはならぬと、制限されたと言ひ伝えられて

資料によると入定したのが文明15年（1483）であることから、死後3年を経て板碑が建てられたと考えられます。

**高僧と子育て幽霊伝説**

頭白上人には、殺された母親から墓の中で生まれ、母親の幽霊が夜な夜なあめを買いに来て育てていたとの伝説があります。そのため、上人は生まれながらに頭髪が白かったと言われています。

死んでからもなお、子どもを守ろうとする母の愛の深さが幽霊の薄気味悪さとともに人々の心をつかみ、布教や説法のために語られたと考えられます。

なお、このような類似の話は日本全国に見られ、伝説と宗教が結びついたわかりやすい事例として興味深いものとなっています。

本塚は昭和52年6月1日、市文化財に指定されました。

問い合わせ

生涯学習課

☎(50)1224